

映画に 131 人、意見交換に 70 人が参加

活発に意見交換しました

3月4日、映画「第九条」を上映しました。映画では無作為に集まった12人の若者が大激論する場面が続きます。議論を終わらせるには全員が一致するとのルールで、議論の途中で九条の破棄か維持かの意思を確かめるとちょうど半々でした。さらに、議論を続けますがどうなったかは不明。「戦争はダメ。憎しみは必ず連鎖を生む。九条を世界の理念にしていくことが必要だ」との最後の発言が共通の認識になった様でした。

当日の映画会には131人の参加がありまし



たが、その後70人が残り意見交換しました。最初の発言は高校2年生で、「安倍

さんが憲法を変えようと言っていました、ちょうど憲法のテストがありました。憲法は維持すべきで、平和を追求すべきだと思います」と発言してくれました。その後の発言は、「安倍首相が戦争に一番に行くと言うなら話を聞く気持ちはある。戦争がどうして行われるかを考えると過去のことを振り返らない日本は心配」、「恨みの連鎖を断ち切ることが大切で9条がその役割を果たせたら良い」、「戦争は誰かが利益を得るもの。そのスタートはウソから始まる」、「森友学園で日本会議の人の本質を見たような気がしている」、「天皇の責任をキチンとしないと日本の役割が果たせない。1条と9条はセットになっている」、「責任を曖昧にしたままの国が軍隊を持つと必ず戦争をするのではないかと思う」、「テロの原因をなくすことが大事だ」と13人の方から次々に意見をいただきとても良い集いになりました。

映画会に参加した50人の方からアンケートをいただきましたが、感想を別紙で紹介していますのでご覧ください。

＝お薦め映画＝

「標的の島 ^{かじ} 風かたか」

三上智恵監督の沖縄3部作、「標的の村」、「戦場ぬ止（とうどう）み」に続く「標的の島 風（かじ）かたか」が4月8日（土）から大阪と神戸で公開されます。「ニュース女子」の「反対派には韓国人、中国人がうようよ」といったフェイクニュースが飛び交うなか、沖縄に居を構えてずっと撮り続けている三上監督の最新作をぜひご覧ください。

私が辺野古に行った時、隣に座っていた40前後の女性が「ではこれから仕事なので」と言っ

て8時過ぎにゲート前を後にしました。普通の暮らしの中に闘いがあるのだと、あらためて沖縄の人々の粘り強さを知らされました。三上さんの作品には、闘いの場だけではなく、日々の暮らしを丹念にすくい上げることによって、なぜ抗い続けるのかを観るものに訴えかけてきます。大阪は十三の第七芸術劇場、神戸は新開地のアートビレッジセンターです。初日には両館とも三上監督のトークが予定されています。現地にはなかなか行けなくても、知ることによって本土の私たちにできることを考えてくださればと願っています。（川島 智子）



12周年記念のつどい
けんぼう ファースト
松元ヒロ爆笑ひとり芝居

日時:6月10日(土)

14:00～ (開場 13:30)

会場:上宮川文化センター
ホール(予定)

参加協力費 1000円

(大学生・高校生 500円)